

一般社団法人
 福岡県中小企業家同友会



↑事務局ブログ
福岡県内の中小企業を紹介してます！

一般社団法人 福岡県中小企業家同友会

〔本部〕

福岡市博多区吉塚本町9-15 福岡県中小企業振興センタービル11F
TEL：092-686-1234

〔北九州地区センター〕

北九州市小倉北区浅野1-2-39 クルーズ浅野ビル808号
TEL:093-551-3111

〔県南地区センター〕

久留米市西町1367-1 祥栄ビル2F
TEL:0942-33-3355

福岡同友会HP▼

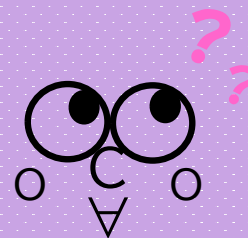


発行日：2025年3月31日

Vol.6
地域づくり特集

中小企業って なんしょ〜と？

—あなたの知らない中小企業の世界—



地域の課題解決は、
地元中小企業にお任せ！

1 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1-2

2 コラム「地域課題に取り組む中小企業」・・・・・・ P.3-4

3 企業紹介

☀️ 有限会社吉原住宅・・・・・・・・・・ P.5-6
「古ビル再生でまちづくり ～築100年をめざして～」

☀️ NPO法人発達障がい者就労支援ゆあしっぴ・・・・・・・・ P.7-8
「誰も取り残されない社会をめざして」

☀️ 株式会社大匠建設・・・・・・・・・・ P.9-10
「地域の悩みを解決できる企業をめざして」

☀️ 特定非営利活動法人ドッグセラピージャパン・・ P.11-12
「犬と人が暮らしやすい世の中で心豊かな社会を」

☀️ 株式会社BOOK・・・・・・・・・・ P.13-14
「可能性は無限大！ なんでもできる世界をつくる」

☀️ 株式会社アットマーク・ラーニング・・・・・・・・ P.15-16
「地域が高校 明蓬館高等学校」

☀️ うきはの宝株式会社・・・・・・・・・・ P.17-18
「平均年齢83歳！？ ばあちゃんビジネスとは？」

☀️ 株式会社アズマ・・・・・・・・・・ P.19-20
「必要なものは自分たちで！」

☀️ 株式会社Soil・・・・・・・・・・ P.21-22
「ゼロからイチに！ アイデアで地域課題に取り組む」

☀️ 株式会社カンカングループ・・・・・・・・ P.23-24
「次代に紡ぐ街づくり・人づくり」

4 コラム「国民や地域と共に歩む中小企業」・・・・・・ P.25-26

今回は「地域づくり特集」です！

Vol.6となる今回のテーマは、社会や地域の課題に取り組む企業特集です。教育や高齢者活躍、地方創生など多岐に渡る社会課題・地域課題へ対して、多面的に取り組む企業をご紹介します。

同友会の理念の一つである「国民や地域と共に歩む中小企業をめざす」企業が、福岡県内で多く活躍しているということが伝わると考えています。
ぜひご覧ください！

地域社会と住民生活に貢献してきた中小企業

日本の全企業数約338万社のうち99.7%が中小企業であり、中小企業全体の雇用者は約3,310万人を抱え、実に日本の従業者の約7割を占めます（中小機構HP）。中小企業は、戦後から今日まで日本経済の発展を支えてきました。2010年には「中小企業は、経済を牽引する力であり、社会の主役である」とする『中小企業憲章』を政府が閣議決定しました。『憲章』では「地域社会と住民生活に貢献し、伝統技能や文化の継承に重要な機能を果たす。小規模企業の多くは家族経営形態を採り、地域社会の安定をもたらす」、「国家の財産ともいふべき存在」と、地域社会に深く根を下ろして企業活動を行っていることが明記されています。

「超高齢化社会」「格差社会」などの問題がいわゆる現代の日本社会では、人口減少問題や空き家問題、貧困と格差、環境問題など、様々な地域課題を抱えるようになった今日でも、中小企業が地域社会に果たす役割は変わりありません。今回登場されたような豊かな企業家精神をもつ中小企業経営者と社員の力によって、日本社会は支えられています。

中小企業憲章

平成22年6月
閣議決定

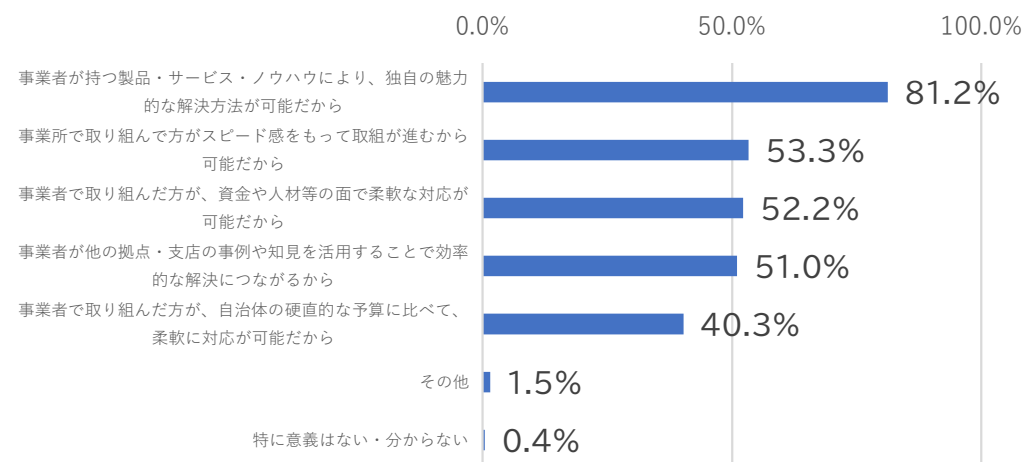
中小企業は地域のインフラ

これまでも地域課題に取り組む企業の動きとして、CSR（企業の社会的責任）という考え方がありました。CSRは企業が環境問題などの社会問題に対して、慈善活動やボランティア活動などを通じて貢献するという考え方でした。しかし、CSRには、企業の社会貢献活動が本業から切り離され、単なるイメージアップのため等の活動に終わってしまうという批判がありました。

一方、近年ではより革新的で持続可能な企業活動を生み出すためのアプローチとして、マイケル・ポーターとマーク・K・クラマーが提唱した「CSV（共通価値の創造）」という考え方が浸透し、企業の事業活動そのものが社会課題の解決に貢献するという考え方が広まってきています。つまり、社会課題を解決することで、企業の収益性も向上させるという、経済的価値と社会的価値の両立をめざす動きです。また他方で、従来の企業はお客様の困りごとを「ニーズ」としてとらえ、商品・サービスづくりに生かして事業

展開をしてきましたが、さらに進んで地域のお困りごと・地域課題を企業変革や事業展開の「機会」・チャンスとしてとらえ、事業展開に生かしている点でも特徴的です。これまで地域課題への対策事業は、採算性の問題などもあり企業での事業展開はされにくく、「行政や自治体」が役割を果たしてきました。一方で、現在は行政の財政難の問題なども背景として、企業による地域課題の取り組みへの期待が高まっています（下記グラフ・中小企業庁『2023年版小規模企業白書』）。行政や自治体に代わり地域課題を自社の事業や経営課題とする中小企業とは、いわば地域社会になくてはならない「地域のインフラ」とも言えます。

自治体から見た、事業者が地域課題の解決に取り組む意義



出典：「第2部地域課題を解決し、持続的な発展を遂げる小規模事業者」『2023年度小規模企業経済白書』より
資料：（株）野村総合研究所「中小企業支援機関における支援能力向上に向けた取組等のアンケート」

中小企業に関わる一員になる魅力

今回ご紹介した企業はほんの一例です。読者の中には、「地域の役に立ちたい！」「社会に役立つ企業で働きたい！」など、もっと知って関わってみたいという企業に出会った方もいるかもしれません。中小企業への関わり方は、就職はもちろん、会社向けの専門サービス業、中小企業支援団体などを通じて、様々な形で可能です。中小企業は「社会の主役」であり、このコラムを読むあなたも“社会の主役”として、中小企業に関わる一員となって頂けることを願ってやみません。

古ビル再生

吉原住宅 有限公司

代表取締役

吉原 勝己 氏

- ▶ 創業
1965年9月
- ▶ 会社所在地
福岡市中央区大名2-8-18
天神パークビル
- ▶ 電話番号
092-721-5530
- ▶ 従業員数
6名
- ▶ 事業概要
テナントビル・賃貸住宅マ
ネージメント・カフェ・リ
ノベーション
- ▶ ホームページ



古ビル再生でまちづくり ～築100年をめざして～

古ビルに新たな価値をつくる



代表の吉原勝己さん

皆さんは冷泉荘という建物を知っていますか？冷泉荘は博多区上川端町にある1958年建造の当時では珍しい鉄筋コンクリート（RC造）のアパートです。その歴史的価値が認められ、2024年には国の「登録有形文化財」に登録されました。

吉原住宅有限公司は冷泉荘のような古ビルを“ビンテージビル”として再生し、管理運営を行っている会社です。吉原勝己さんが代表を務めています。インテリアやファッションの分野ではよく耳にするビンテージ（古くて価値が高い）という考え。吉原さんはこれを建物にも当てはめてビンテージビルという新たな文化を創り出しました。

吉原さんが家業である吉原住宅に入社した頃、自社物件はどれも老朽化して空室だらけ、このままでは4,5年で倒産するという危機的状況でした。そこで吉原さんが行ったのが当時（2003年頃）の日本では前例のなかった賃貸マンションのリノベーションです。壁や天井など今ある風情は残しつつデザインの違いをいくつか作ったところ、その斬新さや珍しさから口コミですぐに広まり、瞬く間に入居者が決まっていきました。「古いビルでもきちんと再生すれば価値が生まれて人が集まる」と確信した吉原さんは不動産再生という新たな分野を開拓していくことを決心しました。

ビンテージビルを残す意味

古い建物を残していくことは当時の歴史や文化を後世に伝え、その地域を特徴づけることにつながります。前述の冷泉荘は空襲で焼け野原となった土地に地元の企業家が復興の思いを込めて建てたものだと言います。福岡には冷泉荘のように古く価値のあるビルが多数存在していましたが、それを理解せずスクラップアンドビルドが繰り返されてきました。「冷泉荘の意匠は素晴らしく建てた方の思いが伝わってきます。思いが込められた建物がどうかは一目見ればわかるものです。価値のあるビルを壊し、儲けるためだけのビルを建て、それがまた古くなり、結果つまらない古ビルが増えていく。そうなればそのまちの歴史や文化、個性も失われていきます。これを防ぐためにもビンテージビルの文化を広め、共感者を増やす活動に取り組んでいます」と吉原さんは語ります。

ビンテージビルの存在がまちづくりに

現在の冷泉荘はオフィスやアトリエとして各部屋が貸し出され、入居者が自由にリノベーションできるようになっています。「福岡の古い建物を大切にする考え方の実践」を理念に、使えるものは使い、工事の跡もあえて残しながら、その歴史を建物に刻んでいきます。入居者の多くはこの理念に共感する文化人です。築66年、家賃は新築並みですが入居希望者は絶えません。「おんぼろなのに家賃が高い、けれど人気がある。それを見て市民は建物の価値に気づきます。そして文化人のように発信力があり魅力的な人物が集まっている。つまり入居者の方々が冷泉荘のブランドそのものになっているのです」と吉原さんは話します。

冷泉荘を管理運営する中で、吉原さんはほど良い関係性を大切にしています。干渉はしないけれど会話を交わしたり何かの時に協力し合ったりする関係が今の時代には求められています。ビンテージビルの文化を広め根付かせるにはビルだけでなく、その中で生まれる人とのつながりが重要です。また、冷泉荘では年に数回入居者主催のイベントが開催され、近隣住民も多く訪れ賑わいを見せています。ほど良い関係性で育まれた冷泉荘のつながりが外へ広がり、地域に交流の場を生み出しているのです。このように不動産再生事業とは古ビルの再生を通して地域の活性化、ひいてはまちづくりを行う社会的な取り組みと言えます。

冷泉荘は戦後日本初のRC造集合住宅として文部科学大臣より登録有形文化財に登録され、まさにビンテージビル文化を象徴する建物となりました。次に吉原さんがめざすのは築100年です。

「それまで元気でいるつもりですが、自分がいなくてもビンテージビルの文化が広まり発展していくよう、後継者の育成にも力を入れていきます」と語る吉原さん。これからも福岡からビンテージビルの文化を発信し続けます。



リノベーション
ミュージアム冷泉荘

発達障がい者 支援

NPO法人 発達障がい者就労 支援ゆあしっぷ

理事長
桑原 由美子氏

- ▶ 創業
2012年6月
- ▶ 会社所在地
福岡市博多区博多駅前
4-33-1
- ▶ 電話番号
092-573-0108
- ▶ 従業員数
6名
- ▶ 事業概要

発達障がい者の就労を支援と
する塾の開講と発達障がい者
の就労支援セミナーの開催

- ▶ ホームページ



誰も取り残されない 社会をめざして



ゆあしっぷのスタッフの皆さん
写真中央左が桑原さん

「あたりまえを学ぼう」

NPO法人発達障がい者就労支援ゆあしっぷは、
発達障がいや生きづらさを抱える方が一人ひとりの
願う人生を実現できるよう、自立支援セミナー
の開催や相談事業などの活動を行っています。

理事長の桑原さんは自身の子どもが発達障が
いを持っていたことをきっかけに、将来子どもが
社会で生きていくためには何が必要かを考えてい
ました。その中で多くの人の意見を聞き、ルール
やマナーを身につけて生活習慣を整えることが重
要だと考えるようになりました。こうした考えを
広めるため、同じく発達障がいの子を持つ母親た
ちと協力し、「支援が行き届きにくいグレーゾ
ンの人々にも手をさしのべたい」という思いで当
法人を立ち上げました。

ゆあしっぷでは「あたりまえを学ぼう」とい
う考えのもと、発達障がいのある人々に向けた講
座を開催しています。特に重視しているのが「自
己理解」の促進です。

発達障がいの特性の一つとして、「相手の意図を汲み取ることが得意でない」ことが挙げられます。そのためコミュニケーションの行き違いが起こりやすく、人間関係のトラブルにつながる場合があります。これが続くと自尊心の低下にもつながります。講座ではスタンプを押す、カッターで紙を切るなどの事務作業を通じて、受講者が自身の得意・不得意を確認できるようにしています。自分に合わない環境で働くことは大きなストレスの原因となるため、まずは「自己理解」が重要です。発達障がいのある本人への支援と並行して、社会の受け入れ体勢を整えることもゆあしっぷの重要な活動の一つです。その取り組みの一環として、行動分析学のセミナーを開催しています。行動分析学とは行動を分析・研究し、その原因や法則性を探求する心理学の一つです。行動分析学を学ぶことで、問題の行動が起こらないよう環境を整える、叱らずして問題行動を改善する、などの効果が期待でき、育児や教育など様々な場面に应用することができます。また発達障がい者やその家族を対象にした交流会も開催しています。交流会で情報や意見を交換をすることで、安心感を持つ参加者が多いです。さらにゆあしっぷは企業や保護者、支援者など幅広く相談を受け付けています。桑原さん自身が発達障がいの子を持つことから当事者としての共感を持って話を聞くことができるのもゆあしっぷの特徴の一つです。現在は発達障がい者の就労支援が中心ですが、今後はさらに幅広い相談に対応できるような体制を整えていきたいと考えています。



行動分析学のセミナー

「モウソウは実現のはじまり」

ゆあしっぷでは、日々スタッフの方々が「こんな困りごとがあるから、こうなったらいいね」といったアイデアを出し合い、それを実際の活動につなげています。この発想の広がりが、最近はモノづくりへ広がっています。現在は、引きこもりの方が月一回ほど事務所を訪れて仕事体験として手作り作品を制作しています。ゆくゆくはマルシェに出店したいと考えています。まだ始まったばかりの取り組みですが、本人たちの副業として収入を得るきっかけとなり、生活の支えの一つになればと期待されています。このように、日々の「モウソウ（妄想）」から新たな支援の形が生まれ、それが実際の活動へとつながっています。桑原さんが支援活動を続けるうえで大切にしているのは、「暮らしのQOL（生活の質）を上げること」です。人それぞれが、自分に合った環境で生活することが暮らしの質を上げることにつながります。そのためにお互いが考えや想いを少しづつ寄せ合い、「寛容な社会」をつくる必要があります。誰も取り残されない社会をめざしてゆあしっぷの取り組みは続いていきます。

古民家再生

株式会社 大匠建設

代表取締役

井上 真一 氏

取締役

倉重 竜祐 氏

▶ 創業

1990年07月

▶ 会社所在地

那珂川市恵子1-47

▶ 電話番号

092-953-3063

▶ 従業員数

32名

▶ 事業概要

設計・施工・製造・取付・
管理まで一貫して社員で施
工できる建築屋

▶ ホームページ



地域の悩みを解決できる 企業をめざして



取締役の倉重竜祐さん（左）と代表の井上真一さん（右）

「古民家」がキーワード

株式会社大匠建設は、営業からプランニング、設計、施工までワンストップで手掛ける木造建築のプロフェッショナルです。2017年度より福岡同友会・環境経営委員長を7年間務めた代表の井上さんは「古民家」をずっとキーワードにしていました。環境経営の勉強をする中で古民家鑑定士1級を取得し、古民家再生事業をスタートしました。地元の樹木を地元の住まいに地域資源として循環させ、人にも地球にも優しい古民家再生によって日本の文化を承継していこうと考えています。



古民家体験施設 結（YUI）

地域内での自給自足にこだわる

井上さんは29歳で創業し、那珂川に住んで30年になります。また大匠建設は「恵子（えこ）」という土地に本社事務所があり、地名のとおり、多くの素晴らしい子どもたちに恵まれ、いつも明るい元気な声に囲まれて仕事に励んでいます。

現在、高度な経済活動の代償として、自然環境を壊す要因となっている温暖化ガス（CO₂）が大量に排出され、温暖化が進み、自然環境のバランスが崩れることで様々な異常気象が発生しています。大匠建設は温暖化への対策として、電気自動車や太陽光発電の導入など具体的な活動を始めました。電気の無駄、ガソリンの無駄だけでなく、時間の無駄、紙の無駄、在庫の無駄等々、様々な無駄を省くことで資源を効率的に使い、よりよく健やかな明日をつくるために日々努力しています。また、国産木材の使用や環境に優しいCLT（ひき板を並べて繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料）を用いた建設に取り組んでいます。

さらに電気やガソリンの無駄を無くす身近な工コから、社内の電灯をすべてLEDに交換するなど様々な省エネ対策を試みています。

このようにできることから環境問題への対策を積極的に進めています。



木材の循環



古民家再生技術の承継

地域の悩みを解決できる企業 でなければならない

大匠建設では本社屋上に太陽光パネルを設置しました。初の試みであり迷いもありましたが、費用対効果を検証したところ電気代の削減効果が大きいことが分かりました。現在では、工場的那珂川工房、うきは市の土地にも設置しています。

太陽光発電により、電気代の無駄を省き、CO₂削減への貢献を期待しています。

同友会の理念にもつながる「地域の悩みを解決できる企業」でなければならないと井上さんは語ります。再生可能エネルギーへの取り組みを加速し、将来的には那珂川市でのエネルギー100%自給自足をめざしています。



工場的那珂川工房に設置した太陽光発電

特定非営利活動法人 ドッグセラピー ジャパン

理事長

野田 久仁子氏

- ▶ 設立
2013年4月
- ▶ 会社所在地
北九州市小倉北区片野
3-14-1
- ▶ 電話番号
093-923-2128
- ▶ 従業員数
5名
- ▶ 事業概要
セラピー活動セラピードッグ訓練、販売、分譲アニマルセラピー啓蒙活動。
- ▶ ホームページ



犬と人が暮らしやすい 世の中で心豊かな社会を



野田 久仁子さん

ワンちゃんです社会問題の解決を

ドッグセラピージャパンは、「人と犬の新たな関係を創り出し、犬への正しい理解を広げることによって人と犬がともに暮らしやすい社会を構築する」を理念に掲げ、ドッグセラピー活動や犬カフェ、犬猫殺処分ゼロ啓発活動などを行う特定非営利活動法人です。これらの活動以外にも犬の販売やトリミングを行っています。子どもの頃から生き物が好きだった野田さんは、知り合いから譲ってもらった犬をトリミングしてもらったことをきっかけに、トリミングを習い始めます。犬に希望を与えてもらったこともあり、犬に幸せになってもらいたいという思いと犬猫殺処分の現状を知ったことから、現在の法人を設立しました。

犬を通して、高齢者の社会参加や子どものコミュニケーション不足改善、障がい者の就労支援、殺処分問題などあらゆる社会問題を解決することをめざしています。

ワンちゃんです高齢者や子どもに笑顔を届ける

会社を定年退職すると外出機会が減り、知らず知らずのうちに引きこもりがちになることも少なくありません。また、家にこもってゲームしたり、スマホの普及によりコミュニケーションを苦手とする子どもも増えています。これらの社会問題を解決するために、セラピードッグによる犬カフェや子ども食堂、高齢者施設でのセラピー活動を行っています。セラピードッグとは、ふれあいや交流を通じて病気やケガまたは精神的な痛手を受けた人の不安を減らし気力を高め心と体を癒やす働きをする訓練を受けた犬たちです。同社ではセラピードッグの育成も行っており、高齢者施設をセラピードッグと訪問し、抱っこしてもらったり、ゲームをしたりします。犬を飼うことができない高齢者が犬とふれあうことで、自然と表情が豊かになり性格が穏やかになります。あまり人と会話をしようしない高齢者の方が話そうになったり、寝たきりの方が動こうとするなど目に見える変化がたくさんあります。認知症の方がふれあいを通して昔の記憶がよみがえることもあります。

子ども食堂では、大学生が宿題を教えながら、犬を通して子ども同士のコミュニケーションが生まれています。消極的だった子どもが積極的になったという事例もあります。また同時に犬を通じて命の大切さも教えています。

犬のお世話だけの短時間労働で障がい者雇用をした経験から、A型事業所として就労支援にも取り組んでいます。

人、動物、それを取り巻く環境の健康はひとつ

人が健康で暮らすためには、地球で暮らす動物、そして地球自身も健康である必要があるというワンヘルスという考え方があります。ワンヘルスの6つの柱のうち、「人と動物との共生社会づくり」「健康づくり」に重点をおき活動しています。高齢者が犬との散歩によって運動不足が解消され、社会とのつながりが持てれば、健康になり、結果的に医療費や介護費の削減にも繋がります。高齢になっても安心して犬を飼い続けられる環境を整え、セラピー犬によって高齢者の社会参加や健康寿命の増進といった社会問題の解決に寄与しています。

家族で利用できるドッグランも新たに鞍手町で始動しました。個室利用や食事の持ち込みが可能です。家族のコミュニケーションの場になり、子どもも走り回れるので健康にも寄与できます。また、将来犬を飼ってみたいという人向けにセラピー犬を借りて体験することもできます。犬と人が暮らしやすい世の中で、心豊かな社会づくりをめざしています。



セラピー活動の様子

株式会社 BOOK

代表取締役

青柳 考哉 氏

▶ 創業

2016年4月

▶ 会社所在地

田川市猪国2559

▶ 電話番号

0947-49-3300

▶ 従業員数

12名

▶ 事業概要

旧猪位金小学校を廃校利活用した音楽スタジオに宿泊、キャンプ・BBQ、テナント等の公共施設運営事業。

▶ ホームページ



可能性は無限大！ なんでもできる世界をつくる



人が行き交う廃校活用施設 「いいかねPalette」

筑豊炭田で栄えた田川市。現在の人口は4万人余りへと減少しています。株式会社BOOKが運営する「いいかねPalette」は、国が地方創生を推進する「まち・ひと・しごと創生交付金」に基づいて田川市が旧猪位金（いいかね）小学校の廃校利活用をプロポーザル方式で公募される中、当社の提案が採用されたことで始まりました。

主な事業は、飲食カフェ「おいとま食堂」、教室利用の宿泊施設、シェアハウス（住居）、中庭のオートキャンプ・BBQ、レンタルスペース・コワーキングスペース、テナント事業を展開しています。宿泊施設は、数名での宿泊から10名以上の団体利用もあります。シェアハウスは1ヶ月から住むことができ、個室利用、ドミトリ形式があり、住民票の取得も可能です。

テナント入居者は現在、プールサイドを利用したメダカ養殖、障がい者就労施設（網戸・襖の製造）、芸術団体、音楽出版社など多岐にわたります。また、フリースペースではマルシェが行われるなども合わせると、年間のべ約1万人以上が「いいかねPalette」を利用しています。

芸術企業支援施設として

廃校利活用は全国に事例がありますが、当施設の特徴は、デジタルコンテンツ産業をテーマにした芸術起業支援施設として役割を果たしていることです。創業者向けのオフィス貸出のほか、フリースペース、リハーサルやライブ、レコーディングが出来る充実した音楽施設や、アートギャラリーなどが低額で

利用でき、アート・芸術を軸にした起業拠点となっています。体育館や広い校庭をいかしてドローン教室、音楽ライブが行われるなど、アイデアと可能性は無限大です。



給食室をリノベーションした飲食店

2023年「グッドデザイン賞」受賞



レコーディングスタジオ

“社会をもっとおもしろく！” 地域の空気感を変える「BOOK」の役割

田川市の地域課題も少子高齢化、人口減少、産業の弱さなどがあります。しかし、青柳さんが考える一番の地域課題は、何か新しいことなどをしようとするときに、否定されたり阻止されたりする“空気感”だと言います。どんなに“バカなアイデア”も、10年後には“事業化のアイデア”になりえます。実は「やれるかも?!」という気づきを得られることこそが活動の火種になり、新しい事業が地域で生まれ、ひいては産業化にまでつながっていきと考えています。

自分の人生や住む町を、自分たちで良くしよう、面白くしようとするには、まずは「思うこと」、そして「実際に動くこと」が大事です。他人任せでは世の中は変わりません。株式会社BOOKは地域の空気感を変えて「なんでもできる世界をつくる」ために、「いいかねPalette」を作りました。「やれるかも?!」と感じられる「ハコ」を準備していますので、皆さんの想いで魂を注ぎ行動につながる場にしたいと思っています。

いいかねPaletteでは、企業研修や団体合宿の誘致にも力を入れています。ぜひホームページもご覧ください！

あなたの人生変わるかも？
いいかねPaletteホームページ



学校教育

株式会社 アットマーク・ ラーニング

校長

小賀 友子氏

▶ 創業

1999年4月

▶ 会社所在地

(明蓬館高等学校)

田川郡川崎町安真木1373

(本社)

東京都品川区北品川5-12-4

リードシー御殿山ビル3F

▶ 電話番号

0947-49-5111

▶ 従業員数

正社員59名 パート28名

▶ 事業概要

川崎町が設置認可した学校教育法一条に基づく一条校を、特区法に基づく株式会社立高等学校として運営。

▶ ホームページ



地域が高校

めいほうかん

明蓬館高等学校



明蓬館高等学校入口

通信制高校でありながら 地域と交流する高校

通信制高校である明蓬館高等学校は、内閣府認定特区高等学校で、全国を対象とした学校です。通信コースだけでなく、通学コースもある学校で、950名を超える生徒のうち、120名ほどの学生が本校に通っています。本校以外にも全国にサポート校があり、福岡以外でも通学することが可能です。本校は田川郡川崎町にある廃校となった旧安宅（あたか）小学校を借りて運営されています。この小学校は、2006年に統廃合で廃校となりましたが、校舎が建て替えられてまだ1年しか経っておらず、まだまだ活用できる状態でした。当時、この校舎をどう活用するかが課題となっていました。また小学校は地域コミュニティの場にもなっているため、それがなくなった後どう地域コミュニティを維持していくかも課題でした。廃校して1年が経った頃、川崎町に講演に来た株式会社アットマークラーニングの日野社長は、当時の川崎町町長に連れられ、この旧安宅小学校を訪れます。株式会社としてはじめて日本で学校を経営

天日干しボランティア



敬老会ボランティア

地域に貢献する高校

この対面授業ですが、通常の通信制高校ではどうしてもリアルな体験活動が難しいという弱点があります。対策として、明蓬館高等学校では、年間24本の体験学習プログラムが用意されており、規定の対面授業では、このプログラムより選ぶことが出来ます。このプログラムは大きく3つに分かれており、地産地消調理や田舎暮らしを体験する「イクスピアリパッケージ」、環境保全活動や地域ボランティアに参加する「アトラクションパッケージ」、地域行事や学校行事に参加する「パレードパッケージ」があり、それぞれに8本のプログラムがあります。具体的には、「イクスピアリパッケージ」では、地元の野菜を使ったピザ作りに挑戦したり、魚楽園（国指定の名勝である日本庭園）で歴史散歩をしたり、「食べる」と「楽しむ」をコンセプトとした活動となっています。「アトラクションパッケージ」では、鮭の稚魚を放流したり、ホタル狩りやホタルの餌であるカワニナの捕獲をしたり、水や土にふれる活動となっています（捕まえたホタルやカワニナは、ホタル部での活動、ホタルの育成と放流に使われています）。「パレードパッケージ」では、地元のお祭りに参加したり、地元の敬老会のお手伝いをしたり、地域交流の活動となっています。また、学校の文化祭や歓迎遠足に参加するという活動もこちらに含まれています。このように学校内だけでなく、学校の外に出て活動することで、地域交流や環境保全などを行い、これら活動を通して、地域に貢献する高校となっています。

していた日野社長が、「ぜひこの地に通信制の高校を作りたい」と考え、明蓬館高等学校が設立されました。

現在小賀さんが責任者として運営している旧安宅小学校は、地元の交流センターとなっています。明蓬館高等学校は、この交流センターを借りて運営されていますが、地域の人もこの交流センターを利用し、集会や催し物をします。つまり、生徒と地元の人が交流する場にもなっているのです。また、明蓬館高等学校は通学コースと通信コースがありますが、通信コースであっても規定の対面授業が義務付けられています。この対面授業では、単に学校に来て授業を受けるだけではなく、学校の外に出ての体験や、地域行事への参加、地域ボランティアとして活動するなど直接地域と交流ができる授業となっています。



小賀 友子さん

うきはの宝 株式会社

代表取締役社長
大熊 充 氏

- ▶ 創業
2019年10月
- ▶ 会社所在地
うきは市浮羽町妹川4333-1
- ▶ 電話番号
0943-76-9688
- ▶ 従業員数
6名
- ▶ 事業概要
うきは市の農村で75歳以上のおばあちゃんたちが働くことで「生きがい」と「収入を得られる」会社がうきはの宝(株)です。
- ▶ ホームページ



平均年齢83歳！？ 「ばあちゃんビジネス」 とは？



大熊充さん(左)とばあちゃんたち

田舎のばあちゃんが日本を救う

うきはの宝株式会社は、少子高齢化が進むうきは市で、75歳以上のばあちゃんたちが働いている会社です。

大熊さんは26歳の時、バイク事故で長期入院を余儀なくされ、人生を悲観し、生きる希望を失ってしまいました。誰とも話す気分ではありませんでしたが、同じ病棟にいるばあちゃんたちから毎日話しかけてもらううちに、徐々に笑顔を取り戻していきます。その時、昨日元気に話していたばあちゃんが今日突然亡くなったという知らせを聞いたことが「生きる」ということを見つめ直すきっかけになりました。この入院先での出来事が人生のターニングポイントとなり「生きるってことをちゃんとやろう！おじいちゃん、おばあちゃんたちに恩返しをしたい！」という思いから、現在のばあちゃんビジネスにつながっています。

75歳以上のばあちゃんたちが働く仕事、働く場を創り続ける

その後、まちづくりを学び、故郷のうきは市でたくさん的高齢者と接するうちに、体は元気で動くのに、コミュニティがなく孤立していたり、年金だけでは生活がままならなくなり、生きがいを失ってきたりしているという実態が見えてきました。そこで大熊さんは、週に1日から2日、1日3時間から4時間の短時間勤務で、長年の経験で培われた料理（食）という分野で働く場をつくりました。現在は、かつお節を使用した万能調味料や手作りの干し芋など「ばあちゃん飯」の調理、加工を行っています。



働くことで、自分の身体を動かし、仕事場という新たな居場所ができる。またそこで働く様々な地域のばあちゃんたちと出会い、料理という自分の得意なことを生かすことができ、感謝され、やりがい、生きがいを感じ、収入も得られるというばあちゃんたちにとってよい効果がたくさん表れました。ばあちゃん飯のほかにも、ばあちゃんをひたすら取材し続ける「ばあちゃん新聞」の発刊を行っており、この取り組み（ばあちゃんビジネス）で『GOOD DESIGN AWARD 2024 グッドデザイン賞・ベスト100』を受賞しました。2025年春には、空き家を活用し、地域のじいちゃんばあちゃんが日替わり店長になる「ジーバー喫茶」を3店舗オープン予定です。2025年10月には「ばあちゃんの学校」という全国のじいちゃんばあちゃんたちが自慢の田舎料理を持ち寄るコンテストを行ったり多世代や企業・行政と学び合うリアルイベントの開催などさまざまな事業を展開予定です。

人は歳をとったら「教育」と「教養」が大事

きょういくは今日行く場所があること。きょうようは今日やる用事があること。

社名にもあるうきはの宝の「宝」は子どもたちだと大熊さんは言います。ばあちゃんたちが働きもっと頑張ることで、現役世代の力になります。それは次世代の子どもたちに繋がり、全世代が幸せになると考えています。そのために、じいちゃんばあちゃんたちがもっと社会や地域で“活躍できる機会”を全国で作らなければいけません。ばあちゃんたちもお世話されたいとばかり思っているわけではありません。人は人のために何かをする時に力が出ます。高齢者のサポートをするという視点を「活躍できる場をつくる」という方向に変えていくことが必要だと考えています。



ばあちゃん新聞を手に 当時99歳のばあちゃん

エネルギーの 地消地産

株式会社 アズマ

代表取締役

中島 一嘉氏

▶ 創業

1978年5月

▶ 会社所在地

八女市吉田1645-4

▶ 電話番号

0943-24-4001

▶ 従業員数

35名

▶ 事業概要

建築板金、屋根工事、とい
工事、全般。太陽光発電設
計・施工。

▶ ホームページ

<http://www.e-azuma.jp>



必要なものは自分たちで！



代表取締役の中島さん

地域への恩返し

株式会社アズマは、建築板金や屋根工事、太陽光発電の設計・施工をしている建設会社です。

元々建築板金の仕事のみでしたが、1999年にメーカーから太陽光発電の話を受け、新しく事業として取り組み始めました。

しかし2008年のリーマンショックの影響で2009年の売上が激減。倒産の危機に陥ります。会社を立て直すためにいかに稼ぐかを追求していく中で、地域の企業から仕事依頼があり、事業を継続することができました。地域で多くの仕事をしたことで「地域に必要とされているのではないかと」、「もっと地域で必要とされる会社になりたい、なれば社会的危機が来た時に対応できる会社になれるのではないかと」考え始めました。

中島さんは「自分たちにできること、皆さんの役に立てることをしていきたい。それが中小企業の役目」と語ります。

強い田舎を創りたい！

そこで中島さんは2017年に地元の会社から協賛金を募り「やめエネルギー株式会社」を設立しました。「みんな八女が好きだから、協賛金を出してくれた」と語ります。新たに設立した「やめエネルギー株式会社」と「株式会社アズマ」が連携し「LED'S」という取組を行っています。「LED'S」とは「Local Energy Direct Supply」の略式であり、エネルギーの「地消地産」が目的です。「地域で消費しているものを地域で作ればいいじゃん！」「必要なものは自分たちで作ろう！」それが地域内循環につながると考えているため「地産地消」ではなく「地消地産」としています。

地域の仲間と共に

エネルギー需要の課題解決だけでは強い田舎は作れません。他の課題解決の取組をするために任意団体として2022年に「やめスマ研究所」を立ち上げました。ここでは地域の企業や学生、市役所を巻き込んだワークショップを行っています。ワークショップと同時開催でステークホルダーミーティングを行い地域の課題を選出します。「やめスマ研究所」に関わっていただいた方々全員に、みんなが理想とする将来の八女を描き、地域課題を解決しつつリソースを活用してどのようなビジネスをつくれるかを検討しています。2050年には変化し続ける八女をめざして行動しています。

このコミュニティに参加する若者の「僕たちの思いは川なら、川上から川下へ流れっぱなしです。この地域において自分たちの思いを汲み上げる装置が必要です。やめスマがこの装置になり、思いを汲み上げることで水車が回ってエネルギーに代わっていきます」の言葉で、このコミュニティをさらに広げ、地域をもっとよくしていきたいとより一層感じました。

中島さんは「田舎だからこそできることに精一杯取り組み、地域をよくすることで中小企業の存在価値を高めていきたい」と語ります。「株式会社アズマ」だけが元気になるのではなく地域全体が元気になる取組を行っています。

地方創生の先へ

地方創生を追求していくと、基礎自治体の枠内だけではなく、近隣の地域との協力が不可欠です。行政は基礎自治体の枠組みの中で動かなければなりませんが、民間はその枠組みを超えることが可能です。事業領域も広げつつ、行政と協力しながら「強い田舎」を創っていきます。



新しい八女を創り出す仲間たち

株式会社 SoiL

代表取締役
荒巻 健志氏

- ▶ 創業
2016年9月
- ▶ 会社所在地
福岡県柳川市曙町30-1
- ▶ 電話番号
0944-85-9329
- ▶ 従業員数
社員数6名、パート数30名
(内障がい者雇用20名)
- ▶ 事業概要
就労継続支援A型の生産活動でセレクトショップ、いちご観光農園&カフェ、リラクゼーションサロンなどの事業を展開しています。
- ▶ ホームページ



ゼロからイチに！ アイデアで地域課題に 取り組む



代表取締役 荒巻 健志さん

誰でも働きやすい環境をつくる

株式会社SoiLは福岡県柳川市にて障がい者就労支援A型事業で20名を雇用しています。

この事業では障がい者（以下利用者）を雇用し、生産活動を通して利用者に働く機会を提供し、就労に関する訓練や、成長、自立する機会を提供しています。生産活動の中で、自社で持っているイチゴ農園、イチゴカフェ、セレクトショップ、リラクゼーションサービス、学習塾などで、利用者の目標と目的に応じて仕事を用意しています。

最初は継続できる事業を考え、アクセサリ販売の生産活動から始めました。しかし、コロナ禍で一変し、この状況で今のやり方を続けるのは危険と思い、同友会の学びの中で得た、自社の強みを生かしたやり方ではないとやっていけないと感じました。

新事業への転換

新事業に進出するきっかけとなった一つがイチゴ農園です。柳川には観光農園がないこと、4年間ほどイチゴ農園で作業していた経験から、「自分たちでイチゴが作れるのではないか」と思い新規事業に取り組みました。農園は運よく補助金事業があり、期限が迫った申請書を死に物狂いで作ったところ、6次産業に繋がるよう先を見越した提案等を入れたものが通り、イチゴ農園、イチゴカフェの展開に繋がりました。

また、アクセサリ販売を行っていた経験から、接客やお店作りの販売のノウハウを活かし、セレクトショップへ業態を変えて運営しています。アイデアは従業員である地域のお母さん方から出てきたものを採用し、現在では親子向けの洋服を扱うことで、地元の30~40代の女性へのニーズにこたえた店舗を運営しています。

現在就労支援をメインとしているため、続けていくために様々な事業を手掛けています。障がいを持っている方が活躍できる場所、能力を発揮できる場所は多種多様であり、それらに対応することで利用者が活躍できるようになっていきます。同業の中でも一般企業への就職者数が地域で一番多い事業所になっています。

地方創生への想い

現在様々な業態をゼロからイチへ生み出している荒巻さんですが、今後は成功事例をパッケージ化して他の地域で実践することを考えています。それらを実践し横へ広げるためには、自分と同じ考えを持つ人材の育成が必要不可欠です。

田舎特有の自社だけがよければよいという目線から、共に地域を作る目線へ変わり、持続可能な発展を遂げることで、地方を永続させる秘訣となりえるよう、現在地域をあげて取り組んでいます。



現在では6棟あるビニールハウス



soil select farm

地方創生・ 地域防災

大牟田ビンテージのまち
株式会社、株式会社カン
カングループ

ほか1社

代表取締役

富山 博史氏

- ▶ 創業
2014年5月
- ▶ 会社所在地
福岡県大牟田市本町1-5-17
- ▶ 電話番号
0944-57-6556
- ▶ 従業員数
60名（内パート・アルバイト55名）
- ▶ 事業概要
不動産賃貸業・飲食業・
DIYリノベによる街づくり
- ▶ ホームページ



次代に紡ぐ 街づくり・人づくり



富山 博史さん

子どもたちが住み続けられる街に

富山さんは大牟田市内で不動産賃貸業や飲食業の会社を運営しています。DIYリノベーション賃貸という、入居者が大工さんと一緒に物件のペンキ塗りなどに関わり、自らの部屋を作る物件を手掛けたことで、空き家が点在する地域の課題に気づきました。現在、市の人口は約10万8千人。ピーク時から約10万人減少しています。2014年に大牟田市は「消滅可能性都市」の一つに指定されました。大牟田市は日本の中でもいち早く人口減少という課題に直面した「社会課題先進都市」ではないか？子どもたちの世代も住み続けられる街をつくりたい、そう考え自社の事業でこれを解決できないか模索し始めました。

「応援の余白」を引き出すには

まず市中心部に半径約600mのエリアを設定し、そこで地域の人を巻き込んだ物件リノベーションや街歩きイベントを企画しました。その動きはやがて市役所や商工会議所、商店街を巻き込んだシャッター商店街再生事業へと繋がります。空き店舗所有者と新規出店希望者をマッチングし、商

店街活性化をめざすものです。商店街にどんなお店があれば楽しいかを地域の人と話し合うワークショップや空き店舗見学会を実施し、最終的には大家さんも巻き込んで商店街の営業店舗は20から32へと増えました。この経験は街づくりの起点をつくるのが地域に大きな波及効果をもたらすという気づきにもなりました。費用を下げる手段としてDIYをPRしても人を動かすことはできませんが、DIYによる空き家の改修が街の賑わいを取り戻すという社会的意義に結びつくことで人々の関わりが増えるのではないかと？本気で挑戦すれば周りの人も応援をしてくれるのではないかと？社会課題への挑戦はそう人々の関わりを深め地域から「応援の余白」を引き出すことができるものではないかと考えています。

過去の「信用」が未来の「信頼」へ

2020年7月、大牟田で豪雨災害が起きました。支援物資を被災者へ届ける活動に関わる中で、災害対策も地域の課題であり解決には「関係人口」を増やすことが大事だと感じました。地域には観光やイベントで来た地域と関わりが薄い「交流人口」のほか、地域との関わりや思いを持っている「関係人口」がいます。その「関係人口」を増やすことが「定住人口」に繋がるのではないかと。地域へ思いを持つ人を増やす必要性を感じました。防災・減災に取り組む仲間を地域に増やそうと、休眠預金活用事業という相続人のいない預金口座の資金を地域活性化に活用する国の事業に、DIYと防災・減災、創業支援などを組み合わせたアイデアで応募しました。空き家をリノベーションしたカフェで防災や災害復旧、BCP（事業継続計画）の勉強会を行い、そこで防災知識を得た人が空き店舗を活用して起業すればそこが防災拠点になります。カフェに設けたシェア棚やキッチン是有料で貸し出し、主婦や高齢者など地域の人が手作り商品や料理を販売できるようにしました。そこは様々な立場の人が自分の好きなこと、得意なことで小さな起業をして社会と繋がり、収入を得られる場所になりました。富山さんが参加する街のごみ拾い活動を行うNPO法人グリーンバードでは「防災ごみ拾い」を始めました。豪雨の際に側溝のつまりが原因で内水氾濫が起こるのを防ぐため、日頃から側溝のごみを拾うことで排水機能を強化できると考えたためです。地域に防災士の有資格者を増やし、災害時の避難誘導や避難所運営の担い手を育成することにも取り組んでいます。地域の課題と自社の事業を結び付けることで街に賑わいを戻し、住み続けられる街に近づけ、地域に関わる人を増やすことでさらに強い地域を作っていく。コツコツと過去の「信用」を積み上げることが未来の「信頼」に繋がります。地道な街づくりの取り組みが自社の新たな仕事と地域の未来に繋がると信じています。



グリーンバード活動の様子

『中小企業憲章』の基本理念には「中小企業は、社会の主役として地域社会と住民生活に貢献し、伝統技能や文化の継承に重要な役割を果たす」「中小企業は国家の財産ともいふべき存在である」とあります。このように中小企業の経営基盤は国民生活や地域と密接に結びついており、本冊子『なんしょ〜と』を発刊する福岡県中小企業家同友会事務局では、同友会の理念に「国民や地域と共に歩む中小企業」を目指す企業像として掲げています（『同友会運動の発展のために』より、文意を踏まえて一部編集・引用をしています。数字は発刊した当時の数字です）。

国民や地域と共に歩む中小企業

日本経済における中小企業の役割は、生産で60%、流通で80%、就業人口では80%近くを占め、まさに日本経済の主役といえます。このように、中小企業こそ日本経済の真の担い手であり、国民生活、地域社会、文化を支え豊かな国づくりの柱としての責務を負っています。中小企業の経営基盤は国民生活や地域と密接に結びついており、そこの信頼関係がなければ中小企業の発展はありません。

企業活動は反社会的、反国民的であってはならない

同友会がめざす、「国民や地域と共に歩む中小企業」とは、豊かな国民生活の実現に貢献するものであり、企業活動は反社会的、反国民的であってはならないということです。

かつて第一次オイルショックの時、人為的な物不足が発生しました。中同協は「私たちは、便乗値上げ売り惜しみ等の悪徳商人にはならない」との声明（1974年、第四回長崎全研）を発表し、同友会がめざす企業の経営姿勢を明らかにしました。

バブル崩壊以降も一部大企業の不祥事が相次ぎ、近年も「偽装」事件等により企業モラル喪失への国民の企業不信が続いています。私たちは、同友会理念を企業の根幹にすえて経営をすることこそ顧客、ひいては国民や地域の期待にこたえる道であると考えます。

人びとの暮らしの向上と雇用の場の拡大

中小企業の社会的使命は、すぐれた製品やサービスの創造、提供を通じて、人びとの暮らしの向上と雇用の場の拡大をはかり、地域経済の繁栄に尽くすことにあります。中小企業の発展は、雇用の創造はもちろん個性ある地域文化の形成や人材育成に大きな役割を果たしており、その担い手、推進者としての自覚を大切にしたいものです。

地域経済振興のために活躍する

中小企業は地域経済振興のために活躍することが期待されており、同友会はその中心となって活動を進めることが求められています。

経済のグローバル化による産業構造の転換、空洞化の進展は経済の一極集中を招き、加えて少子高齢化の進行による人口減少は地域を深刻な状態にしています。同友会はそのそれぞれの地域において、地域経済の活性化に積極的に提言し、行政機関、経済団体、金融機関、教育・研究機関、市民団体と連携し、よりよい地域づくりを共に進め、国民一人ひとりの幸せを大切にする経済社会をつくっていかねばなりません。

「国民や地域と共に歩む中小企業」の理念を、自社経営のあり方として追求していくことが大切です。

<参考資料> 中小企業庁HPより（中小企業基本法にもとづく中小企業の範囲の定義）

業種	中小企業者		小規模企業者
	資本金の額又は出資の総額	常時使用する従業員の数	常時使用する従業員の数
①製造業、建設業、運輸業 その他の業種（②～④を除く）	3億円以下	300人以下	20人以下
②卸売業	1億円以下	100人以下	5人以下
③サービス業	5,000万円以下	100人以下	5人以下
④小売業	5,000万円以下	50人以下	5人以下

